東アジアの平和構築
-市民社会からの実践-

NPO法人Wake Up Japan副代表理事　長川美里
武蔵大学非常勤講師
上智大学　Global Studies 博士後期課程
長川美里 Misato NAGAKAWA (She/Her)

MISATO_WIZ_EASTASIA

東アジアの次世代が、
「近くて、遠い」と言わない社会をつくる

長川美里

Misato Nagakawa (She/her)

上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程在籍
北京大学国際関係学修士/東京大学公共政策大学院修士 (CAMPUS Asia)
ソウル大学国際関係大学院（留学）

ミッション
東アジアの次世代が「近くて、遠い」と言わない社会を創る

所属機関/コミュニティ
- グロービス経営大学院 シニアアソシエイト
- NPO法人Wake Up Japan　副代表理事
- 武蔵大学非常勤講師（Peace Studies / Global Leadership）
- TCS日中韓青少年交流ネットワーク コアメンバー(2023-2024)
- 世界経済フォーラム Global Shapers, Davos 50(2023)
- 日ASEAN・Z世代ビジネスリーダーズサミット アドバイザー（2023-）

専門性
- プロジェクト・プログラム設計
- ファシリテーション／モデレーション
- ストーリーテリング
- 東アジア関係
- 平和構築
- ユース・エンパワーメント

著書
日韓スタディーズ（2024、共著）

最近考えていること

なぜ、戦後80年たった今でも、
東アジアでは、
多くの問題を残しているのだろう

12.7

「中国について親しみを感じる」

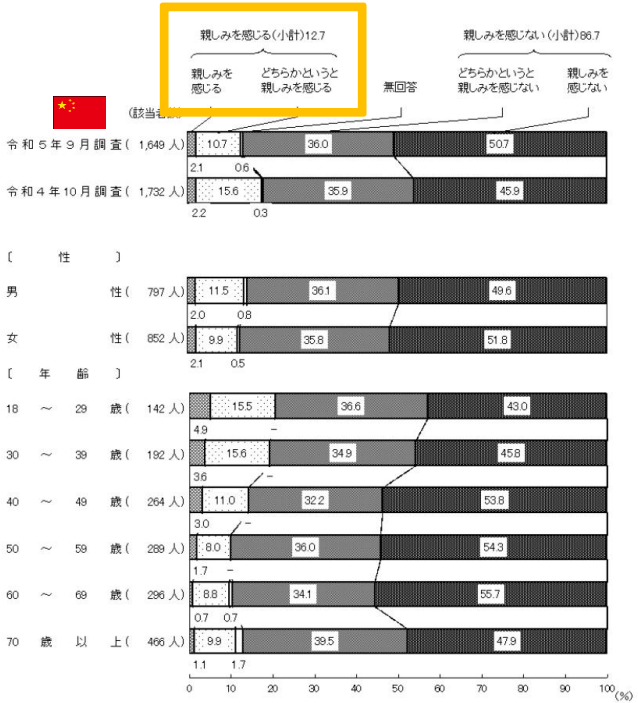
52.8

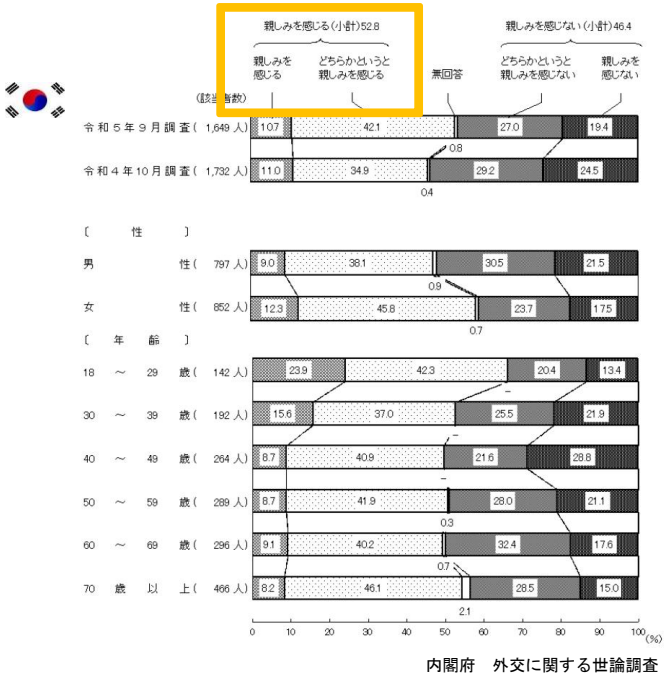
「韓国について親しみを感じる」

内閣府　外交に関する世論調査（2024年1月発行、2023年9月調査）

中国・韓国について親しみを感じるか？

- 対中国は**12.7%**（減少）の日本人、対韓は**52.8**（増加）の日本人が「感じる」と回答
- 双方において**18~29歳の若い世代は他の世代と比較し、「感じる」（対中20.4%、対韓は66.2%）**と回答する割合が多い
- **中国**：男女で「親しみを感じる」の回答格差はわずか。年齢が上になると親しみを感じないが上がっている。
- **韓国**：女性は58.1%が「親しみを感じる」と回答。年代では40代・60代のみ「親しみを感じる」が50%以下。



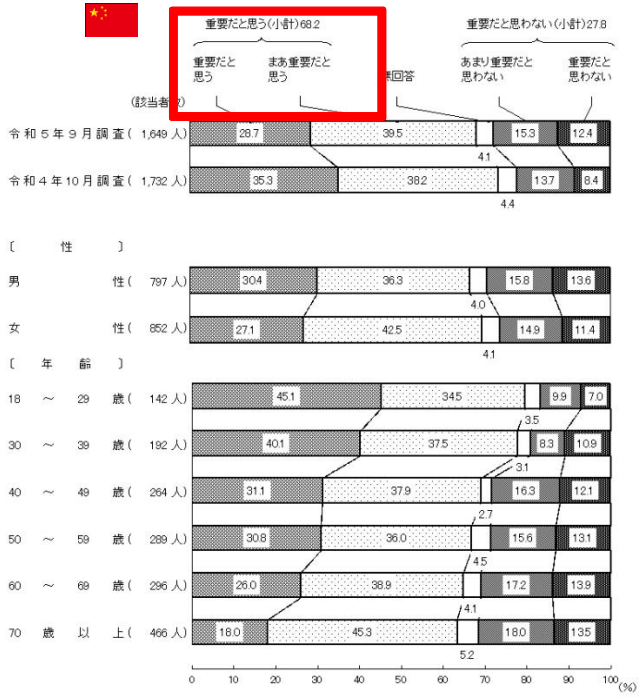


内閣府　外交に関する世論調査（2024年1月発行、2023年9月調査）

私達は、「人」の話をしているんだろうか、
「国」の話をしているんだろうか

両国関係は重要だと思うか？*

- 中国については68.2%(減少）、韓国に対しては73.1%(増加）が「重要だと思う」と回答
- **両国**：全世代で「重要だと思う」という割合は半数を超え、18~29歳の割合は高い。
- **中国**：男女差は特段見られないが、年齢が上がると重要だと思う割合は微減していく。
- **韓国**：女性は男性より10%近く「重要だと思う」割合が高い。



*今後の日本と中国/韓国との関係の発展は、両国や、アジア及び太平洋地域にとって重要だと思いますか、それともそうは思いませんか。

内閣府　外交に関する世論調査（2024年1月発行、2023年9月調査）

こころの声

「親しみを感じない」けど、大事？

感情と、合理的な判断の、はざま。

なぜ、東アジアの和解に取り組むのか

私達一人一人が
互いの国の過去との関係性を変え、
未来を創る

東アジアの次世代が、
「近くて、遠い」と言わない社会を創る

東アジア平和大使
プロジェクト
East Asia Peace Ambassador Project

東アジア地域における、
草の根からの平和大使の輪を広げる

毎月の対話/企画を通し、
日本社会の中から対話を促す、
2020年から発足した社会に開かれた
プロジェクト

EASTASIA.PEACE.PROJECT

Wake Up Japan

NPO法人 WAKE UP JAPAN

一人一人に、社会を変える力がある

私達が目指すもの

- 道端やカフェで人が出会った時に、何気なく挨拶ができたり、おしゃべりができる。
- そして、誰もがありのままの自分を大切にして、お互いに尊重している。
- 社会問題は自己責任と片付けず、仕組みの問題だよねって、一人ひとりが主体的に参加して課題解決に向けて社会を動かしている。
- そんなフレンドリーで、アクティブな社会を目指しています。

基本概要

- 設立：2016年
- 団体概要：社会教育団体（2021年NPO法人格取得）
- メンバー：日本全国を中心に約100名
- 事業：シティズンシップ教育事業・ソーシャルジャスティス事業・アライアンス事業

社会に開かれたプロジェクト

様々な属性を超え、
本人が参加したいという意思を持てば参加できる
教育や啓発を目的としたプロジェクト

コンセプト

「近くて、遠い」と東アジアの次世代が言わない社会をつくる

問題意識

なぜ、戦後80年たった今でも東アジアの三ヵ国の国民感情は悪いのだろう

仮説

様々な背景を持った社会のあらゆる人々が、互いの考え、価観、生活を知る**きっかけが限られている**

アプローチ

社会に生きる私たち一人一人が、**等身大で出会い**、理解し、**連携**できる場を作る

3年の歩みとこれから

「近くて、遠い」と東アジアの次世代が言わない社会をつくる

EASTASIA.PEACE.PROJECT

2020 基盤構築

- プロジェクト発足
- 李財団より補助金獲得

2021 認知度の向上

- 前年度参加者の巻き込み

2022 持続性の確立

- 参加者からの運営メンバーへ
- インスタグラムアカウントの発足
- UNOYへの加盟

2023~ 声を届ける

- 各回で参加者・関係者の平和への「声」を集め、**戦後80年の2025年に談話を発行**する

259
参画者・協力者

イベント申し込みや登壇者、協力を頂いた事業参画者・協力人数の総数

29
場の創出数

毎月行うイベントやワークショップ、フィールドワークの実施総数

2
助成金・連携団体

2020年李熙健韓日交流財団、2023年より United Network of Young Peacebuilders 加盟

全体像

「近くて、遠い」と東アジアの次世代が言わない社会をつくる

Wake Up Japan、企画チーム、事業として大切にしている価値観を理解してもらう
- ✓ Wake Up Japanについて
- ✓ 企画者について
- ✓ 事業について

8月15日が日本の社会にとってどんな日なのかを考え、日本社会において構成されている平和感や歴史館について考える
- ✓ 終戦記念日とは

日中韓という三ヵ国の関係性を改めて知り、今後「近くて、遠い」関係性を市民から築くには何が必要かを考える
- ✓ 東アジア情勢
- ✓ 国民感情

理念理解 → 韓国 → 日本の戦争の記憶 → 中国 → 東アジア → 平和

外国としての韓国と、日本社会の中の韓国の双方について知る
- ✓ 日韓関係（国民感情）
- ✓ 今日の韓国社会
- ✓ 日本社会の中の韓国（在日、韓国人留学生）

外国としての中国と、日本社会の中の中国の双方について知る
- ✓ 日中関係（国民感情）
- ✓ 今日の中国社会
- ✓ 日本社会の中の中国（華僑コミュニティ、中国人留学生）
- ✓ 台湾・香港

東アジアだけではなく、大きな枠での平和構築について知り、今後の活動のヒントに繋げる
- ✓ 国際政治
- ✓ 平和構築活動

安全の場づくり/Safe Space Creation
対話のための約束

- 私たちは異なる経験、国籍、宗教、性別、ジェンダー、または、多様な背景や価値観をもっているという前提で話し合いましょう。誰もが無自覚に偏見のある発言をする可能性があることを理解しましょう。(痛みがあったらそれもぜひ伝えてください。)

- [I Statement]。発言する際は、「意見や解釈」と「事実」を使い分けるように心がけてください。また、それが個人の経験としての事実である場合は、(意図をしない偏見を生むことを防ぐために)そのことを示すように主語を明確にして発言することを心掛けてください。

- わからない言葉があった場合は、わからない人が悪いのではありません。その代りにわからないことを伝え、説明をしてもらいましょう。それは、話し合いに参加する全体にとって共通理解を生むことができる大きな貢献にもなります。

- 話し合いでは、知識だけでなく、一人ひとりの感情や気持ちを分かち合うことも重要であることを心がけましょう。

事例：日本の戦争の記憶 -ひと、政治、思想-（2022年8月）

テーマ：日本の戦争の記憶 -ひと、政治、思想-

目的：

- 日本社会の中に残る戦争の記憶に、2つの象徴的な施設、靖国神社と千鳥ヶ淵への訪問を通し、触れる。
- 双方の場所が戦後果たしてきた役割や、祀られている対象に対して異なる立場を展開する人々の考え方を理解し、日本という国における戦後の記憶とその論争について、自らの立場や役割を考えるきっかけとする。

日時・構成：2022年8月14日（日）

13:00-13:55	ワークショップ（私たちの認識）
13:55-14:00	事務連絡
14:00-16:45	靖国神社・遊就館、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑（自由行動）
16:45-17:55	ワークショップ（私たちの認識）
17:55-18:00	Wrap Up

参加者：社会人6名、学生4名、計10名（中国・韓国国籍参加者含む）

事例：日本の戦争の記憶 -ひと、政治、思想-（2022年8月）

設定した問い：

1. あなたにとっての戦争の記憶とは？
2. 戦争と聞いたときに感情は紐づくか？
3. 靖国神社/千鳥ヶ淵と聞いて知っていること、思い浮かぶこと、感じていることは何か？
4. 靖国神社/千鳥ヶ淵で新しくあなたが知ったこと、感じたことは何か。

聞かれた声：

「恐怖/怖さ、悲しみ、怒り、苦しみ、独立、自由、悔しい、痛み、なぜこうなったのか、虚しさ」

「千鳥ヶ淵にはじめていった。献花をしなかった。なぜ自分が献花をしなかった、というところで気持ちの振り返りができた。これは結構どっちでもいいかなということで、でもどちらの方もいたので、対話が重要なんだなとおもった。理解できる見え方の違い。」

参考：靖国神社・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑

靖国神社

- 明治天皇の思し召しによって建てられた招魂社が始まり。明治12年(1879)に「靖國神社」と改称されている
- 「大東亜戦争」の中で祭られている合祀者数は2005年時に2,133,915柱*
- また、2005年次、**台湾出身者は約28000柱、朝鮮出身者は21000柱合祀**されている*
- 靖国問題として、哲学者の高橋哲也*は「感情」「歴史認識」「宗教」「文化」「国立追悼施設」の5つとして論じている

国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑

- 昭和34年（1959年）に建設された**無宗教の国立施設**で、「先の大戦」における全戦没者の慰霊追悼のための聖苑
- 墓苑は日本に持ち帰られたご遺骨において、名前のわからない戦没者のご遺骨が 納骨室に納めてある「無名戦没者の墓」でもある
- 370,267柱（令和4年7/19）のご遺骨がこの墓苑に奉安されている
- 哲学者の高橋哲也*は、千鳥ヶ淵について天皇や皇室、自衛隊幹部との密接な結びつきがあると論じ、「第二の靖国」として機能しているのではと批判している

*高橋哲也「靖国問題」(2005)

事例：日本の戦争の記憶 -ひと、政治、思想-（2022年8月）

聞かれた声：

「意義深い日だなとおもったのは、様々な意見を持つ人と一緒にこれたことはよかった。違和感を感じることや、賛同できること、その肌感覚にしっかりと立ち返って見学できたのは本当によかった」

「行ってよかったとおもったのは、日本側からみた歴史は初めて見た。歴史教科書は昔読んだことあるが、ここまで立場を鮮明に描いた記述はおもしろかった。この流れでこのストーリーを従うと、最終的にこの人々は国のためにたたかった英霊になるだろうなと、なるほどなと。そこでややこしい、どうかなと思うのは、戦わされて死んだ人たちへの敬意と、戦争を起こした人たちへの責任をごちゃまぜにして、頑張ってくれた人、とくくることの危うさは感じた。もう一つ靖国神社がいっている歴史観、ストーリーやナレティブはどういう人が受けているのか、もあると思っている。まわりをみると普通に遊就館をみると若い人や家族連れとか・・・。背景を知らずして広まっていくこと。歴史教科書がそういう方向にいってしまうと、未来永劫、日中・日韓の歴史理解はないだろうなと。そもそも見えていることがちがうし。私にとっては圧倒的に新鮮な歴史観に危うさを感じた。」

「最後の安倍さんがいたところで、ショックを受けたが、みなさんとしてはどうおもっている？メディアとしては国葬の意見が反対多いときいたが。」

2023年度の様子

EASTASIA.PEACE.PROJECT

- 参画者：104名、場の創出数：10
- **国際化の強化**

UNOYのケニアで行われたYOUNG PEACEBUILDERS FORUM、企画責任者長川個人として韓国ソウルでのASIAN LEADERSHIP CONFERENCEへの参加、STRAIT TALK関係者を招いて英語における回の実施（STRAIT TALK東京は12月開催予定）、台湾渡航の実施。台湾渡航においてはAMA MUSEUMが訪問の様子をインスタグラムに掲載。

- **国内連携**

助成を受け取っている李熙健韓日交流財団差主催の早稲田大学でのイベント内で12月回をTLAとMOONと共同実施。手法を工夫しての発信強化として、インスタグラムではイベントの広報や報告だけではなく、テーマ別投稿を開始。また、メンバーの強みを活かしグラフィックレコーディングを12月回で実施。

2024年予定

EASTASIA.PEACE.PROJECT

2024年度（フェーズ5、2024年7月～2025年3月）

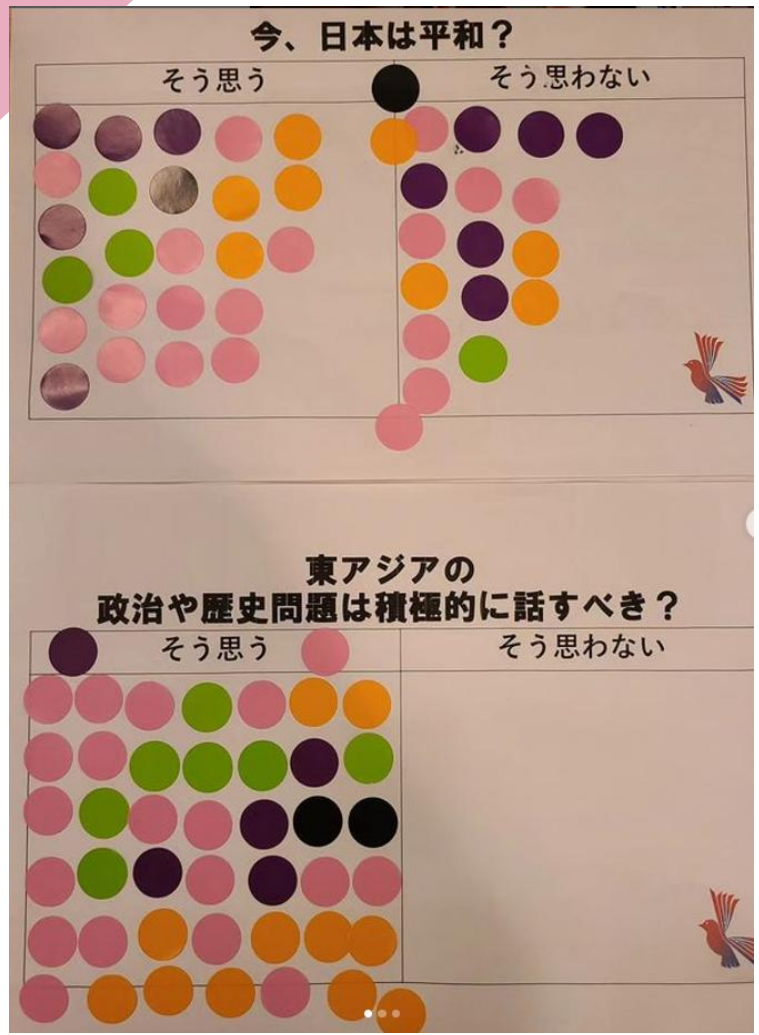
理念理解	日本の戦争の記憶	韓国	中国	東アジア	平和
第一回（都内） 7/13（土）:明日の東アジアは、どんな景色？ -一緒に作ろう！それぞれの平和を-（共同開催 with ERIFF）	第二回（都内） 8月15日（水）：リアル 日本の戦争の記憶	第三回（都内） 9月7日：朝鮮半島の分断の歴史（ゲスト：竹田響） スピンオフ（オンライン） 9月9日：日韓スタディーズ出版記念イベント（ゲスト：金先生・山本先生）	第四回 10月23日（水）（オンライン）：日本と中国を結ぶわたし（協力: Bai Xian Asia Institute） 第五回（オンライン） 10月：団体交流会 第六回（長野） 11月16日~17日 ：満豪開拓平和平和記念館フィールドツアー	特別企画（都内）11月30日/12月1日：国際和解映像祭 第七回：（都内） 1月25日（土） 日本の中の中国 -川口を歩く- 第八回：オンライン 1月27日（火） 満豪開拓平和平和記念館報告会	第九回 2月22日 東アジアの国民感情や80年談話に向けての回 第十回 3月（未定） 平和へ向けて

事例：
日本と中国を結ぶわたし
オンライン
2024年10月23日（水）

「楽観的だな！と思っているかもしれないですが、私達がそうならないで、どうするの？とおもう。もっと寛容になっていいんじゃないと。こっちにきて得たものは多い。」

（キミシマ）

事例：
国際和解映像祭＠早稲田
2024年11月30日（土）



事例：満蒙平和開拓記念館/乙女の碑（長野・岐阜）
スタディーツアー
2024年11月16日~17日

戦後80年市民談話の発行

「近くて、遠い」と東アジアの次世代が言わない社会をつくる

各回で参加者・関係者の平和への「声」を集め、
戦後80年の2025年に市民談話（テキスト・その他の方法も検討中）を発行する

共同記者会見にて発表（2024年8月7日）

集まってきている声抜粋

- 「戦後」と言いながらも、今でも世界では「戦禍」にいる人がたくさんいます。「戦争はしたくない」という人がほとんどなのに、どうしてこうなるのか、考えなければならないと思います。
- 社会は歴史の積み重ねによって創り上げられてきたからこそ、歴史は過去のことだから私たちが背負う必要はない、といって諦めることは、今の社会と向き合わないということと同じことだと思います。「歴史に向き合い続けてほしい」、この言葉を戦後80年を迎える私自身に、そして新しい世代の人たちに伝えたいです。
- 「戦後」はまだ終わっていない
- なんで戦争をするんですか？？？戦争をする理由はたくさんあると思いますが、トップの人たちは国民のことも考えて欲しいです。国民も考えてしっかりと最善策を出して欲しいなと思います。国民はしっかりと被爆国としての意識などを持って、伝えていってほしいなと思います。僕も頑張ります。
- 戦争の悲惨さを教えて今後このような悲惨さを繰り返さないように伝えたい。例えば防空壕の中を体験してどれぐらい当時が苦しいかを知ることが出来る

実践を通して：実績と気づき

- 全体を通し、**参加者傾向として女性が多く**、所属は大学生と30代前後の社会人層の参加が多いように見られる
- 平和や国際関係について、**対話の機会を探している参加者が多い**
- 国際関係への興味や、これまでに**韓国・中国との接点（人・旅行・勉強）が何かしらある**人が大半
- 総じて韓国・中国の人に対しては親近感を覚えている人が多いが、**両国の政府となると親近感はない傾向**が見られる
- **個人レベルの交流の大切さ**がやはり強調されている
- 企画には、専門性（歴史や政治等の知識）、**ソフトな切り口（エンタメ・文化）**の双方のバランスが求められる一方、**高校生・大学生は後者に興味がよりあるよう**に見える

Any Questions?